

1 「霊山」英彦山へ

英彦山は、北に遠賀川、南に山国川という大河の分水嶺をなし、耶馬溪と合わせて、耶馬日田英彦山国定公園に指定されている。



英彦山は羽黒山（山形県）・熊野大峰山（奈良県）とともに「日本三大

修験山」に数えられ、山伏の坊舎跡など往時をしのぶ史跡が残る。英彦山の開山は、継体天皇の25年（531年）北魏の僧善正上人の入山に始まる。さらに日田藤山村の恒雄が善正に師事して忍辱上人と称し、彦山霊仙寺の基となる草庵を開いたと伝えられている。この霊仙寺は明治の神仏分離までは、天台修験の別格本山として栄えていたが、以降旧境内地が英彦山神社となった。現在、霊仙寺の法灯を受け継ぎ、新たに霊泉寺として復興して、銅鳥居のすぐ右側にある。神話では天照大神の子が来臨して鎮座したので「日子山」となったといわれている。平安時代の弘仁10年（819年）、法蓮上人が嵯峨天皇の勅令で上洛し、日子山を「彦山」に改め、七里四方に及ぶ寺領を賜る勅願寺になる。

その後、鎌倉時代までに49の窟が整備され（「彦山流記」1213年）、山伏の修業が盛んになる。室町時代になると英彦山は、神事色が強まり、峰入りという修験道独特の修業が始まるようになった。英彦山より、宝満山、福智山に出て、得度を積む修業が始まった。

戦国時代になると、各大名は血族を彦山座主に据えようと争いがおこり、特に豊後の大友宗麟との確執が大きく、多くの堂宇が焼き払われてしまった。その後、豊臣秀吉の九州平定の折に、七里四方の神領すべてを没収されてしまった。

江戸時代に入ると、小倉藩主細川忠興や佐賀藩主鍋島勝茂らの各地大名から多大な庇護を受けた。参道にある銅鳥居は寛永14年（1637年）にその鍋島勝茂によって建立された青銅製の鳥居である。鳥居正面の「英彦山」の扁額は享保14年（1729年）に霊元法皇によって下賜されたものであり、このときに「英」の字をつけた「英彦山」と称されるようになった。

このように英彦山神宮は修験道の総本山として、長い歴史を持ち、かつて英彦山講は九州全体にまで及んでいたという。その修験者の峰入りは、宝満山をスタートし古処山、馬見山を経て、小石原から岳滅鬼山を通して山伝いに英彦山まで歩くという壮大なものであった。今回の大会コースはその一部を通っている。岳滅鬼山は筑紫溶岩といわれる安山岩の岩山である。また、岳滅鬼山の北東にある岳滅鬼峠は、英彦山東の薬師峠とともに、江戸時代、天領日田と豊前を結ぶ英彦山参りのメインルートであり、今も「従是北豊前國小倉領」の苔むした藩境石が立っている。今回の大会ではその一部を垣間見ることができるだろう。

2 大会コースのルートガイド 太字下線は主要地点

彦山駅から英彦山青年の家へ（1日目：隊行動）

現在は解体され跡地になった彦山駅前を南へ150mほど進むと、三差路になっているのでこれを左に曲がり、踏切を渡る。車道を道なりに登っていき、2kmほど歩くと林道別所河内線の分岐（別所河内）がある。さらに2km強歩くと、県道418号線に突き当たる。この道は九州自然歩道にもなっており、英彦山青年の家まで、この九州自然歩道を行くことになる。具体的にはこれを右に曲がり、県道を150mほど進んだところ（北坂本）で左に曲がる。途中、シカ除けのネットなどを通過して、行くと国道500号線に出る。右側に別所駐車場や英彦山駐在所がある国道を横断しそのまま直進する。古民家の中を進んでいくと直進は奉幣殿、左折は鷹巣原駐車場となっているので左折する。すると間もなく鷹巣原駐車場に到着し丁字路を右へ進む。すぐに車道を横断し登山道を進むと再び車道を横断する。ここでは20mほど車道を進むので特に注意して横断する。この先は英彦山野営場やススキの草原（現在は刈り取られている）となっている鷹巣原高原、バードライン分岐を経て、英彦山青年の家に至る。

英彦山青年の家から斫石峠へ（2日目：隊行動のちチーム行動）

英彦山青年の家から左が豊前坊、右が鷹巣原高原の状態です。右に進む。鷹巣原駐車場までは昨日と同様にバードライン分岐、ススキの草原である鷹巣原高原、英彦山野営場を通過し鷹巣原駐車場へと向かう。昨日の丁字路を今回は左の奉幣殿へ進む。鷹巣高原ホテルを通過するとミツマタの群生やヤブツバキが見られる。車道を横断し左の尾根側に向かって進んでいく。しばらく登山道を進むと英彦山修験道館と呼ばれる大きな建物が現れる。ここを通過するとすぐに奉幣殿に到着する。



英彦山神宮 奉幣殿

ここには天ノ水分神と呼ばれる湧水や英彦山ヒメシヤラ・シヤクナゲ、また、スロープカーの終点でもあり一般の参拝者も多い。左側の階段を登り直進が英彦山上宮、右折が鬼杉の分岐を右に進む。この区間はスギの植林地帯である。20分ほど進むと三呼峠分岐となり右が玉屋神社、左が^{おおみなみ}大南神社方面でどちらも鬼杉へたどり着くが時間が短い左へ進む。アップダウン数回繰り返しながら世界最大の梵字岩分岐や四王寺の滝分岐、^{ころも}衣が池などを通過していく。しばらく進むと大南神社手前に分岐があり、看板には左が上宮・南岳、右が大南神社・鬼杉となっており、ここもどちらを通っても鬼杉にたどり着くが是非右のルートを通して大南神社を見てもらいたい。岩場に刻んであるステップを注意して下っていくと、南岳から下ってきた道と合流するので、右へ進むと鬼杉に到着する。

鬼杉から右が玉屋神社方面、直進が町道大南線となるので直進する。沢沿いを進んでいくと途中渡渉点がある。通常は特に問題はないが大雨の後は増水している可能性がある。そのままくだっていくと大南線に合流する。ここが林道出合である。

ここまで隊行動であるが、ここからはチーム行動となる。コース図の通りに間違いなく進んで、斫石峠までちゃんとたどり着いてほしい。

大南線は右が大権現、左が岳滅鬼登山口となるので左へ進む。大南線を進んでいくと溪谷に一枚岩が見られるので景色を楽しみながら進んで欲しい。途中道路が崩れ工事中的の場所があるのでその部分は気を付けて進んでいく。また、スギの植林に混じってキブシやモミの木も見られる。さらに木の隙間から時折英彦山南岳山頂を確認することができる。しばらく歩くと左に岳滅鬼峠方面、直進が深倉峡、右が大権現へ向かう**深倉分岐**に到着する。

ここは林道と山道が交差している四つ角となっているが、左の岳滅鬼峠へと進む。ここから登っていくと壊れた小屋が現れるのですぐ横を通過して左側へと進む。登山道を注意して進むと**岳滅鬼山登山口**の看板がありここから右側の登山道へと進む。

20分ほど登ると**岳滅鬼峠**に到着す

る。ここから左は石楠花の頭、右は岳滅鬼山方面

となり右へ進む。ここから尾根ルートはブナの自然林やシャクナゲの群生のなかを進んでいく。途中三か所ロープやハシゴが現れるので浮石や落石、踏み外しに注意して進んでいく。最初はハシゴが設置されている。ここは長い距離ではないので前の人がハシゴを通過したのを確認して登り始めてほしい。2番目は長いロープになっている。ロープを使わなくても足場を確保しながら登ることができるが、急にロープをもって体重をかけると他の人に危険が及ぼす可能性があるため、ロープを持つ場合は周りに声をかけて欲しい。右側の木々の間にもルートができています。最後の難所はロープとハシゴの組み合わせになっている。上のハシゴで停滞すると下のロープの途中で待機することになるので上の状況をよく見ながら確認して進む。ハシゴを通過した後も石が崩れやすくなっているため注意しながら進む。ここを通過するとシャクナゲの群生となり**岳滅鬼岳**に到着する。山頂を通過し下っていくと目の前に岳滅鬼山が見える。ススキの草原を登りきると**岳滅鬼山**に到着する。北に福智山、南にくじゅう、東に由布岳と展望が開けている。

岳滅鬼山を越えて尾根伝いにさらに進む。左に伸びている尾根に入ったりしないよう気を付けながらテープなどを頼りに進んで行くと、**三国境**に着く。ここは現在、福岡県と大分県の県境に過ぎないが、旧国名では、筑前、豊前、豊後の三国の境であったのである。これを左に行くと浅間山の方に下って行ってしまおうので、右の尾根の方に進路をとる。深倉越を通過ししばらく進むと**宝珠山**に着く。ここは右の尾根に行かないよう注意して左の方に進む。さらにアップダウンを繰り返しながら尾根伝いに進んで行くと、**釈迦ヶ岳分岐**に着く。ここから標高40mを登れば釈迦ヶ岳であるが、これを左手前に曲がって下ってい



林道出合（チーム行動スタート地点）



岳滅鬼山登山口

く。途中、25,000分の1地形図の道とずれている部分があるが、コース図に示した方にテープなどの道標がついているので、そちらを進んでほしい。釈迦ヶ岳から下ってきた道と合流してすぐに左に下る道がついているので、これを下りきると**斫石峠**に到着する。これより先は審査と関係のないパーティ行動となるが、ゴールは**筑前岩屋駅**なので車に気を付けて車道を下って行ってもらいたい。

3 荒天対策

5月21日に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月21日	大会中止 早期帰還準備	宿泊所待機 行動中止	通常行動
5月22日	帰宅完了	通常行動	通常行動

5月22日に起こった場合

	地震（震度5弱以上）	台風・気象警報以上	大雨注意報 雷注意報発表時
5月22日	大会中止 早期帰還準備	行動中止 早期帰還準備	通常行動